

ちば里山新聞

(第 51 号)
 編集発行 NPO 法人ちば里山センター
 袖ヶ浦市長浦拓 2 号 580-148
 ☎ 0438-62-8895
 題 字 倉島 貴浩
 (ワークホーム里山の仲間たち)

ちば里山新聞は千葉県からの事業委託を受け、特定非営利活動法人ちば里山センターが編集発行しています

木の実のブレスレットづくりなど

10 月 9 日 第 22 回エコメッセ 2017 in ちば

「第 22 回エコメッセ in ちば」が 10 月 9 日(月・祝)幕張メッセ国際会議場で開催され、ちば里山センターは今年も出展しました。今年のテーマは「進めクールチョイス」で、温暖化が懸念されるなかエネルギーの効率的な製造や利用に関する課題が追求されました。(主催者発表によれば、来場者数は 8000 人超)

ちば里山センターのブースでは、パネル展示、里山相談の受付ほか、安全講習会、フォローアップ研修の催事チラシの配布を行い、里山活動への理解や協力を呼びかけ参加募集を行いました。



いいなあ～(T_T) 僕も作りたいなあ～

また、子どもたちに向けたプログラムとして、じゅず玉、ナギ、ムクロジなどの木の実と、ビーズを使った木の実のブレスレットづくりを実施しました。いろいろな木の実とビーズを組み合わせ、色とりどりの自然の味わい豊かなブレスレットが出来上がりました。子どもも大人も足を止め、参加していました。お土産に持ち帰る子どもたちはニコリ笑顔に。

また今年のエコメッセでは、「こども環境会議ちば」が開かれ、千葉県内のこどもエコクラブが集合して活動発表を行ったほか、こどもた

「私に任せて」と張り切る人も・・・

ちの未来を考える「持続可能な社会に向けて親世代ができること」をテーマにした「環境パートナーシップちば 20 周年記念講演会」が開催され、大勢の来場者が参加しました。



イベントのお知らせ

今年は、美しい森林づくりのスタンプラリーに参加しています。スタンプを5個集めて素敵なプレゼントをゲットしよう！
 ちば里山センターブースでも楽しいイベントを用意してお待ちしております。

安全 第一

安全技術講習会盛ん

刈払機やチェーンソーの取り扱いに関する講座が活発に開催されています。今年度は、とりわけ「安全」を重視しようという当センターの事業方針に基づくもので、「ちば里山カレッジ」におけるフォローアップ研修なども含め、ちば里山センターが主催して行う講座が増えたことによります。また、千葉県里山林保全整備推進地域協議会に於いても、林野庁交付金事業における安全重視の方針を踏まえ、安全確保に向けた対応を強めています。ちば里山センターでは、林業・木材製造業労働災害防止協会(林災防)に於ける特別教育を含めた千葉県内で行われる安全衛生教育講習会を網羅し、日程等の紹介を行っています。最近(本年度 7 月以降)実施された安全セミナーは以下の通りです。

◆ チェーンソー ◆

◆ 刈 払 機 ◆

| 講座名 | 開催日 | 会場 |
|------------------|----------------------------------|-----------------------|
| チェーンソー入門講座 | H29 年 8 月 5 日 | 千葉県林業サービスセンター |
| チェーンソー入門・実践編 | H29 年 9 月 9 日 | 木更津笹子の森 |
| チェーンソー労働安全衛生特別教育 | H29 年 9 月 30 日 10 月 1 日(2 日間) | 千葉県森林組合南部支所植畑研修センターほか |

| 講座名 | 開催日 | 会場 |
|----------------|----------------|---------------------------|
| 刈払機安全衛生講習会 <1> | H29 年 7 月 23 日 | 千葉県緑化推進拠点施設 (ちば里山センター) |
| 刈払機安全衛生講習会 <2> | H29 年 9 月 3 日 | 千葉県緑化推進拠点施設 (ちば里山センター) |

なお、第 3 回目は 11 月 18 日、第 4 回目は H30 年 3 月 18 日にそれぞれ予定されています。



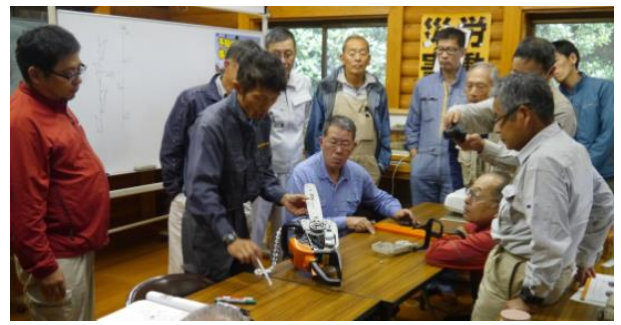
8月5日 チェーンソーの取扱に関し、「段取り八分」「山を甘く見ない」「見込み作業をしない」など作業の基本をベースに、玉切り・水平切りやメンテナンスなどを実習。



9月3日 刈払機取扱作業について、整備の仕方、リスクアセスメントを含む振動障害に関する知識、法令や実技などを含む 6 時間の研修。修了者には刈払機取扱作業安全衛生教育修了証を交付。



9月9日 チェーンソーを取扱う際の服装や装備について点検した後、「受け口」「追口」「伐倒」の手順を確認しました。さらにロープやフェリングレバー・楔(くさび)の活用を実習。



9月30日・10月1日 チェーンソー入門編および実践編に続く、「チェーンソー特別教育」が 2 日間にわたって行われました。修了者には、チェーンソーを用いて行う伐木等の業務に係わる特別教育修了証を交付。

野山の野生のキノコ

ちば里山カレッジ第2回フォローアップ研修

10月14日(土)千葉市昭和の森&緑公園で行われたフォローアップ研修には県内10市から14人が参加しました。午前中、降幡講師が、「キノコの同定は難しい」「キノコに関する迷信の払拭」「キノコによる中毒」など事例を紹介しました。とりわけ通称イッポンシメジと間違えて中毒を起こす事例が今年も発生していることから、ウラボニホテイシメジ(通称:イッポンシメジ)を参加者と観察しました。

続いて鶴見講師から、シイタケ栽培について“キーワードから広がる栽培の奥義”について講義があり、「伐採時期は7分紅葉」「種駒は森産業の290(ニクマル)」「植菌の奥義は菌が呼吸する空間を作る」「シイタケ菌の陣取り合戦」「6乾4湿」などさまざまなポイントが紹介されました。

参加者からのマテバシイの楯木について質問には、「マテバシイは収穫量は多いが、樹皮が剥げやすいので楯木の寿命はあまり長くない」とのこと。

午後には、ウラボニホテイシメジと間違えやすいクサウラボニタケを採取し、ひだや胞子を比較しました。

ノボリリュウ、アセタケ、ホコリタケの一種、クサウラボニタケ、ガンタケ、ドクツルタケ、ヒイロタケ、サクラタケモドキ、シラホウキタケなどが採取できました。採取できたキノコのうち同定できたのは1割くらいでした。残りは“〇〇属”、“〇〇の一種”という区分になり、キノコの同定の難しさが改めて明らかになりました。



採取したさまざまな形や色のキノコ



「キノコの奥義を語る」と鶴見講師

安全コラム その④

道具の手入れは安全の基本

里山整備の活動は、ノコ・ナタ・カマをはじめとして刈払い機やチェーンソー等、さまざまな道具によって支えられています。道具なくしては作業は進められないと言っても過言ではありません。

それだけに、道具を上手に使うことが大事ですが、とりわけしっかり整備して道具の持つ能力を最大に発揮することが大切です。それには、道具のことをよく知り、よく手入れすること。フィルターは毎日掃除してますか。回転部の汚れを払い定期的にグリスやオイルを差してますか。刃は正しく研磨してますか。一連の手入れ作業を毎日のルーティーンワークにしましょう。

道具に心を通わせ魂を吹き込む接し方が、何よりも安全作業そして良い仕事につながるのではないのでしょうか。

スズメバチだ!!

意識不明2日間から生還して

～ちば里山センター高木理事からの手記が寄せられました。長文にわたるものですので編集局で圧縮して紹介します。～

防御服装に隙があった 10月11日、甚左衛門の森(松戸市)で作業中。「スズメバチだ!」の声とともに、フリースの姿勢をとったのですが、軍手と袖の間の隙間から刺されてしまいました。エピペンの注入は行ったのですが、間もなく人事不肖になりました。

私はこれで4回目という“キャリア”で、今度刺されたら「救急車で病院にたどり着けない」といわれておりました。しっかりと手甲を巻いてなかったことを反省するばかりです。

温暖化で活動が活発化 結局、2日以上意識のない時間を含め6日間の入院となりましたが、呼吸筒・酸素吸入器・点滴装置等に繋がっていたこともあり、退院後も、のどの痛み・発声の困難、足腰の弱りなど、つらい思いが残りました。

ハチは、秋になると女王蜂の越冬と産卵の準備等で狂暴になるといわれていますが、最近の温暖化で活発な活動期間が長くなっているようです。私たちは、“蜂刺されによる死者が年間40人という林業現場”に隣り合わせて活動しているということを改めてしっかり認識して臨む必要があると思います。

「山の日記念イベント」に参加

8月5日(土) 「木育」「バイオマス利用」「サンプスギ PR」を兼ねて



平成 29 年度山の日記念イベントが、8月5日、さんぶの森あららぎ館バイオマス体験棟および日向の森で開催されました。主催は山武市農林水産課で、国民の祝日「山の日」(今年は8月11日)の施行を記念し、木の大切さや木のぬくもりを伝えていく「木育」を推進するとともに、バイオマス利用、サンプスギの普及を促進するのが狙い。

当日は、“みどりの女神”も来場し、ウッドスタート宣言の調印式などのイベントが行われました。参加したのは、幼児・高校生などを含む 70 名。森林関係者や周辺の市民が多数来場しました。里山センターからは佐藤理事が参加しました。(写真はウッドスタート宣言の調印)

申込受付中(締切 11/22 まで)

ちば里山カレッジ 第 3 回フォローアップ研修

- ◆日時 11月25日(土)8:45~16:30
 - ◆内容 施設見学を通して森づくりや、木材の利用について学び、樹の大切さを考える。
 - ◆場所 ①千葉県農林総合研究センター森林研究所
②千葉県木材市場協同組合
 - ◆持ち物 弁当、飲み物、筆記用具、雨具
 - ◆参加費 1,500 円(保険代、資料代)
- ※当日、受付にてお支払願います

■スケジュール■ JR 千葉駅東口 NTT 前(バスで移動)
 ~ ①千葉県農林総合研究センター ~ ②千葉県木材市場協同組合 ~ JR 千葉駅東口 NTT 前(解散)
 ※詳しくは、ちば里山センターホームページ掲載のチラシで確認ください。また、①の会場に直接自家用車等でお越しになりたい場合は、ご相談下さい。

〜〜〜編集後記〜〜〜

○夏の暑さが厳しかったせいでしょうか、スズメバチやアシナガバチによる被害が多く寄せられています。

○高木理事からも生々しい報告があり、その一部を紹介しましたが、生物多様性バランスの中で、里山活動を続けてゆくには、それなりの注意や対策が必要です。

○事前の調査、情報の共有、服装・装備(エピペンも含めて)の点検など。また、巣を見つけた時は周囲にロープを張るなどして近寄らないようにする措置をお願いします。そして刺されたときは最寄りの病院に急いでください。(YA)

里山の風にゆられて ⑦



ママコノシリヌグイ タデ科イヌタデ属

「継子の尻拭い」とは誰が命名したのか、凄まじい名前である。この草の棘だらけの茎や葉で憎い継子の尻を吹くという意味である。何とも怖い継母であることが。韓国では「嫁の尻拭き草」と呼ばれる。名前が日本に伝わる過程でだんだんと激しくなったのでしょうか？

(写真・文 赤松義雄

H29.10.26 袖ヶ浦市椎の森で)

入会申し込み・問い合わせ先

定非営利活動法人 ちば里山センター

〒299-0265 千葉県袖ヶ浦市長浦拓 2 号 580-148 ☎0438-62-8895 FAX0438-62-8896(平日 9:00~17:00)

E-mail info@chiba-satoyama.net HP <http://www.chiba-satoyama.net/>